



徳成寺 寺にもかわら版 第207号 2024年3月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

「仏は、人間の苦悩を救うのでなく、苦悩の人間を救う」と

教えられています。なので浄土真宗のお寺には、お札やお守りは

ありません。もっとこうなればいいのになあという願望を叶え、苦悩を

解消するのが仏様ではないからです。ありのままに地に足をつけて、本当の

ことを言い、本当のことが聞けるという関係が開かれることによって、苦悩する

人間を救おうとしているのが仏様です。そんな仏様とご縁を結んで頂くのが仏事です。

毎朝毎晩のお勤め、花を立てお仏供を供えるお給仕、季節ごとに営む年中行事。故人の

御命日。365日、仏様と離れない暮らしをしませんか。そんな仏様と疎遠になると、

人間の苦悩に追い立てられて、本当のことを言い、本当のことが聞ける関係から

ほど遠く、かけ離れてしまいます。仏様のところへ、帰っておいでよ。

発行責任者

住職

大山健児

坊守

大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば



お世話になっております、副住職です。毎日娘が元気でありがたい一方、もう少し早く寝てくれないかなと思う今日この頃です。お参り先でもよくこんな話をするのですが、そんな中で、ある門徒さんが「子供は3歳までに一生分の親孝行をする」という言葉を教えてくれました。3歳までに子供が両親に与える生命の感動は生涯に渡って得る事ができない貴重な経験だと言う事だそうです。聞いたことがある言葉だったので、誰の言葉か調べてみました。すると、諸説あるものの、作家の永六輔さんの言葉だそうです。そして、この言葉には続きがありました。「赤ちゃんの可愛らしさとはそういうものです。それ以上の期待を子どもにしちゃあいけませんよ」と。写真はお腹いっぱい母乳を飲んだ後の娘の顔です。先月は泣いてる顔と笑ってる顔、今月はとぼけた顔…どんな様子でも愛くるしい存在なのですが、我々大人は自分の都合で色々な期待をしてしまうものです。そう言うところを見透かして、言葉を届けてくる永六輔さん、凄いなあと思いました。